

2014 年度第 9 回執行理事会議事録

日 時：2015 年 2 月 14 日（土）13:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：井龍会長 山本副会長 齋藤常務理事 緒方 杉田 竹内 平田 星 保柳

オブザーバー：小川勇二郎会員(15:00～16:00) (事務局) 橋辺

欠席者（委任状提出あり）：渡部副会長（井龍） ウォリス 海野 坂口 中澤 廣木 松田
山路

* 定足数（12，委任状含む）に対し，出席者 9 名，委任状 8 名，合計 17 名の出席．

* 前回議事録の承認

I 審議事項

1. 長野大会委託業者の選定（竹内理事）

- ・ 日本旅行並びにアカデミックから再見積もりを得た．金額的には日本旅行の方がアカデミックブレインズよりも約 50 万円安い．地元企業としての有利さも含め，長野大会は日本旅行に依頼する方向で調整する．
- ・ プログラムとして，法地質学関係の国際会合（杉田，発表者 5-6 名程度）．もう 1 件（東アジア関係），LOC 主催シンポも予定．

2. 山田科学振興財団の研究助成への推薦について

1 件の応募があり，これを承認することにした．

3. 日本学術振興会賞の推薦依頼に関して

学会への応募締切（3/31）後，推薦者を決定することになるが，応募予定者がある見込み．

4. 地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会より，協議会体制の確認については，下記報告にあるとおり，現状を了承した．

5. 事務局職員の退職について（緒方理事）

これまで，事務局職員阿南晶子氏に対して 8 月 25 日付けの業務改善命令を出し，12 月 9 日，1 月 9 日に面談を行い，円滑な業務運営を行うよう指導してきたが，改善が見られないため，2 月 12 日に再度緒方が面談を行った．その際，緒方が 3 月 31 日退職することを勧めたところ，同意がとれ，合意解約が成立したので，事務局内で他の事務局員の前で，阿南さんが退職される旨を紹介し，退職までの阿南さんに対する支援を求め，本人からも一礼の挨拶を得た．しかし，2 月 13 日に撤回する旨の意思表示があったが，受け入れないことにした．

6. その他

「県の石」について，選考委員会委員長（川端理事）から進行状況について文書での報告あり．5 月の理事会で審議の時間を取りたいとのことについて，了承した．

II 報告事項

1. 全体的報告（メール審議確認）

- 1) 法務委員会委員の増加について、以下の委員を決め、法務委員長に報告した。
機関リポジトリに関する委員：中島 礼（産総研）、藤野滋弘（筑波大）
恒常的法務委員：澤口 隆（東洋大）
- 2) NII（国立情報学研究所）より、申し合わせ事項（公開物の条件等）について確認あり。特段の変更は認めないので「現状維持」とする。
申し合わせ事項の主な内容は、以下の通り。
 - ・地質学雑誌：オープンアクセス公開
 - ・講演要旨：オープンアクセス公開
 - ・論集：有料公開（500 円/1 論文）で、機関定額制許諾ありなお、NII の一部事業終了のため、2017 年 3 月より論集もオープンアクセス公開の予定
- 3) 原子力学会のお詫び訪問報告（斎藤）
回覧資料により報告。本会としては今後の動向を注視する（特に科学的な視点で）。
- 4) 地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会より、協議会体制における下記の地質学関係についての確認があったことが小嶋理事より報告され、問題がなければ了承とのこと。
 - ・地質学会は協議会の会員、責任者：小嶋 智理事
 - 地質・地盤情報活用検討 WG：松浦一樹会員
 - 広報 WG：澤口隆会員
 - ・法整備法整備推進活動については、自民党の国土強靱化総合調査会（二階会長、佐藤筆頭副会長、福井事務局長）において説明要望できるよう働きかけ中、年度内に実現見込み。
- 5) IUGS の活動報告（IUGS 理事：小川会員）
固体地球関係（斜面災害、活断層、津波堆積物など）の Geohazard に関するグローバルネットワーク形成をめざしたいという希望と、このためのタスクグループを国内に作るのが可能か意見を聞きたいという話が小川氏からあった。
地質学会が制度設計からすべて担当するのは荷が重い、地質学会の災害関係のオリジナル Web サイトを英語化することは検討することになった。

2. 運営財政部会：総務委員会（緒方）

<共催・後援依頼、他団体の募集等>

- 1) 第 4 回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム（2015/9/15-9/20、実行委員長 尾池和夫）の後援を承諾、会長に組織委員会の顧問就任の要請があり、承諾した。
- 2) 山田科学振興財団への応募が 1 件あり
- 3) 国土地理協会から、平成 27 年度学術研究助成の公募（4/1-4/17）について、周知、案内→ HP, News 誌, geo-flash に掲載
- 4) 日本学術振興会賞の公募（受付期間 4/13-15、学会締め切り 3/31）、応募資格 4/1 現在 45 歳未満 → HP, News 誌, geo-flash に掲載
- 5) 地球化学研究会学術賞「三宅賞」および「進歩賞」（1975/4/2 以降生まれ）の公募、締め切り 8/31 → HP, News 誌, geo-flash に掲載
- 6) 「2014 地球環境保護 土壌・地下水浄化技術展」（協賛）終了報告、来場者 18,877 名。

<会員>

1. 今月の入会者（6名…正：4，院割：1，学部割：1）
 - 2014年度から入会希望
 - 正会員〔1名〕：金子敦志
 - 正(院割)会員〔名〕：三田村圭祐
 - 2015年度から入会希望
 - 正会員〔1名〕：小原 稔
2. 今月の退会者（1名）
 - 正会員〔1名〕 佐藤 桂
3. 今月の逝去者（名誉会員2名）
 - 斎藤昌之（2014年11月26日），千地万造（2015年1月31日）→ 追悼文の依頼をする
4. 2015年1月末日会員数
 - 賛助：27，名誉：64，
 - 正会員：3823（正会員：3636，正（院割）会員：171，正（学部割）会員：16）
 - 合計 3914（昨年比 -80）
5. 将来の会員数予測について
 - 予測条件を設定して2019年度末までの会員数をシミュレーション。2019年度末に約3500人。若手会員の退会を少なくする方策を考える必要あり。引き続き検討。

<会計>

- ・1月末の収支状況について，概要説明，来月には予算案を提示予定。
3. 広報部会：広報委員会（坂口・松田）
 - ・フォトコンの応募状況 現時点で約313件，締め切りは2/16
 4. 学術研究部会（ウォリス・竹内・中澤）
 - (1) 行事委員会（竹内）
 - ・会員の声への行事委員長回答に関するその後の経過
 - (2) 国際交流委員会（ウォリス）
 - ・日本—台湾の学術交流協定：MOU案を送付して確認しているが現在までに返事なし。
 - (3) JIS，標準担当（中澤）
 - ・地層名等層序単元登録審査委員会の設置について関連学協会に委員の推薦を依頼し，下記の方々のご推薦をいただいた。
 - 第四紀：長橋良隆（福島大），地団研：角縁進（佐賀大），地学協会：工藤 崇（産総研），鉱物科学会：石川正弘（横国大），火山学会：？
 5. 編集出版部会（山路・海野・保柳）
 - (1) 地質学雑誌編集委員会（山路）
 - 1) 編集状況報告（2月10日現在）

・投稿論文状況

2015年投稿論文 総数 11 編 [総説 1 (和文 1)・論説 5 (和文 4, 英文 1)・報告 3 (和文 2, 英文 1)・口絵 1 (和文 1)・巡検案内 1]

査読中 23 受理済み 6 (うち特集号 3)

・121 巻 2 月号：特集 トピックセッション「ジュラ系+」の 10 年 (その 1)：日本のジュラ系 (報告 1, 論説 3, 計 41 頁. 校正中)

・121 巻 3 月号：特集 トピックセッション「ジュラ系+」の 10 年 (その 2)：掲載予定.

(2) アイランドアーク編集委員会 (海野)

・編集状況報告

(3) 企画出版委員会 (保柳)

6. 社会貢献部会 (平田・杉田・廣木)

・「地質の日＝街中ジオ散歩」の内容をリーフレットとして出版することについては、共催学会の応用地質学会も了解 (協力または応援?). 内容は今後検討.

・今年の「地質の日＝街中ジオ散歩」の内容の検討を開始し、準備中.

7. ジオパーク支援委員会 (平田)

地震火山子どもサマースクールは、2014 年大会の余剰金を共催学会に分配する予定. また、2016 年度の開催地についての募集を開始.

8. 地質災害委員会 (斎藤)

連合のユニオンセッション (共催)「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか?」で、各学会の取り組みを報告することになった. 地質学会からは地質災害委員長 (斎藤) が地質災害に関わる学会の取り組みを報告する.

9. 中期ビジョン委員会 (坂口)

ニュース誌 1 月号に前編として「地学教育」, 「技術者・応用分野」, 「会員問題」, 2 月号に後編として「学術活動」, 「普及広報」, 「学会運営」のダイジェスト版を掲載. HP には全文を掲載予定.

2015 年 3 月 14 日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長 (代表理事) 井龍康文

署名人 執行理事 斎藤 眞